

平成 19 年度の第 15 回サミットで合意した「三遠南信地域連携ビジョン」が、策定以来 10 年の節目を迎えます。

SENA を平成 20 年に設立して以降、このビジョンを柱として、内閣府の「地域社会創造事業」におけるインキュベーション事業やインターンシップ事業、国土交通省の「広域地方計画先導事業」における三遠南信ガイドブックの発行や「官民連携主体による地域づくり推進事業」として産学官人財育成円卓会議等を開催したほか、地域資源情報の発信、航空消防に関する応援協定や災害時の相互応援協定の締結などに取り組んでまいりました。

この間、三遠南信自動車道や新東名高速道路といった高規格道路整備の進展、リニア中央新幹線整備における飯田市への長野県駅（仮称）設置の決定、東日本大震災を契機とした防災体制の強化、見直しといった数多くの社会環境の変化がありました。

また、今後の人口減少や少子高齢化の進行、リニア中央新幹線東京一名古屋間の開業、第 4 次産業革命など三遠南信地域を取り巻く大きな環境の変化を捉え、新たな 10 年を展望する第 2 次三遠南信地域連携ビジョンの策定に向けて、本日、議論をいたしました。

まず、新ビジョン策定に当たり、以下を目的として掲げました。

- 1 交通基盤整備の進展に伴う交流・連携活動の深化
- 2 産業構造の転換期を先取りする産業創造力の強化
- 3 三遠南信地域特有の地域資源の活用による交流人口の拡大
- 4 流域住民が共生する県境を越えた広域生活圏の形成
- 5 三遠南信地域の持続的発展を支える人づくり

そして、この新ビジョンのテーマを

**「三遠南信流域都市圏の創生～日本の県境連携先進モデル～」**とし、

次の 3 つの視点から地域像を描いてまいります。

- ① リニア中央新幹線や東海道新幹線、高速道路、港湾、空港などの交通基盤を活かし、「大都市圏・世界と結ばれる広域連携都市圏の形成」を進めます。
- ② 高次都市機能の集積が進む名古屋大都市圏との機能連携を図り、「中部圏での中核的な都市圏の形成」を進めます。
- ③ 上下流域が広範な分野で有機的な連携を図り、「流域循環圏の形成」を進めます。

今後は、本日のサミットでの議論を踏まえ、具体的な施策や事業などの検討を進め、来年度のサミットにおいて第 2 次三遠南信地域連携ビジョンの合意を目指します。

これらの成果をここに集うすべての主体が共有し、第 25 回三遠南信サミット 2017 in 遠州のサミット宣言といたします。

SENA 構成自治体に係る連携体制の強化については、一つ一つの市町村の主体性を尊重しつつ、広域連合設置を見据えた第一歩として、平成 30 年度中に連携中枢都市圏などの制度活用を検討してまいります。

平成 29 年 10 月 30 日

三遠南信地域連携ビジョン推進会議

三遠南信サミット 2017 in 遠州